

報道写真家

ロバート・キャパ セレクト展

もうひとつの顔

ROBERT
CAPA



〈ロバート・キャパ・ポートレート〉/1951年 ルース・オーキン撮影 《共和国派民兵の死(「崩れ落ちる兵士」)》/1936年9月
《パブロ・ピカソとフランソワーズ・ジロー(奥はピカソの甥)》/1948年8月 《避難民移送センターにて》/1939年1月
東京富士美術館所蔵 The Robert Capa and Cornell Capa Archive

2022年

9月10日(土)~11月6日(日)

※新型コロナウイルスの影響で
変更場合があります。

開館時間 10:00~18:00(入館は17:30まで) 休館日 月曜日、9月20日(火)、10月11日(火) ※9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝)は開館

観覧料 一般 1,000(800)円、大学生・神戸市外在住の65歳以上 500(400)円、高校生以下・神戸市内在住の65歳以上 無料

※()内は有料入館者30名以上の団体料金。※神戸ゆかりの美術館、小磯記念美術館の当日入館券(半券)をお持ちの方は割引が受けられます。

主催/神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社 後援/サンテレビジョン、ラジオ関西 企画協力/東京富士美術館 展示協力/大阪樟蔭女子大学

K 神戸ファッション美術館
KOBÉ FASHION MUSEUM

特別展

「もうひとつの顔 ロバート・キャパ セレクト展」

2022.9.10 (土) ~ 11.6 (日)

企画概要

ハンガリー出身のロバート・キャパ（本名アンドレ・フリードマン）は、20世紀を代表する報道写真家です。

スペイン内戦の結末を暗示するような《崩れ落ちる兵士》や、死線に身を晒し命懸けで撮影したノルマンディー上陸作戦の激戦は、戦争報道写真の傑作とされています。

リアルタイムに映像が届けられることがなかった時代、キャパの写真が紙面を通して人々に与えた衝撃は計り知れません。

一方で、キャパは戦時下の市民の姿もカメラに多数おさめました。不安げに空を見上げる人々や途方に暮れて佇む人など、戦争が日常化した世界とそこに生きる人たちの姿を多面的に捉えようとする意識がうかがえます。

このことは、キャパ自身が写真集を企画刊行する編集的視野をもっていたことと関係しているかもしれませんが、人が見せる鮮烈な感情と向き合うことで「人間」という存在にせまる挑戦であったと捉えることもできるでしょう。

人の内面を浮き彫りにするキャパの「まなざし」は、親交のあったピカソやヘミングウェイらを被写体とした場合にも遺憾なく発揮されます。

本展では、東京富士美術館が誇るロバート・キャパ・コレクションの中から、溢れ出る感情とそれを捉えるキャパの眼を軸に選り出した約 100 点の作品を展示することで、キャパの「もうひとつの顔」である編集的視点を会場内に構成します。

再び緊迫する世界を前に、激動の世紀を駆け抜けたキャパの写真をぜひご高覧ください。

展示構成

- 前半 -

ロバート・キャパによる戦争報道写真の傑作を展示します。最も有名な《崩れ落ちる兵士》を筆頭に、空襲や避難生活など、甚大な被害をもたらす20世紀の戦争に翻弄される市民たちの様子を鋭く切り取った写真から、戦争を多面的に捉えた報道写真家としての姿勢をご覧ください。

- 後半 -

戦争と強く結びついたキャパのイメージから離れ、『ライフ』誌のために撮影されたアメリカの日常や、ヘミングウェイやピカソなど、親交のあった著名人たちを撮影した写真を紹介します。日本とウクライナ（旧ソ連）で撮影された写真も特集し、キャパが生前に刊行した写真集も展示することで、ジャーナリストとしての側面に光をあてます。

ロバート・キャパ プロフィール

ロバート・キャパ（本名アンドレ・フリードマン）は1913年、ハンガリーのブダペストに生まれた。1930年代から写真家として活動を始める。撮影機材の発展を背景に、臨場感のあるキャパの写真は注目を集める。

公私にわたるパートナーであった女性写真家ゲルダ・タローとともにスペイン内戦を撮影し、兵士が撃たれた瞬間をとらえたとされる「崩れ落ちる兵士」で世に知られる存在となった。第二次世界大戦では連合国のノルマンディー上陸作戦やパリ解放などを取材。

1947年にアンリ・カルティエ＝ブレッソンやジョージ・ロジャーらとともに国際写真家集団「マグナム・フォト」を結成。1954年には来日し、東京・大阪・奈良などで市井の人々を撮影。その直後、第一次インドシナ戦争を取材中に地雷を踏み、40年の生涯を終えた。

主な展示作品



7フィートの竹の棒の先に木炭をつけて描くマティス (1949年8月)



ロンドン (1941年6-7月)



避難民移送センターにて (1939年1月)



ツール・ド・フランス (1939年7月)



国際旅団(外国人義勇兵旅団)の解散式 (1938年10月25日)



カーニバル (1950年2月)



共和国派民兵の死(「崩れ落ちる兵士」) (1936年9月)



パブロ・ピカソとフランソワーズ・ジロー (1948年8月)



ロバート・キャパ・ポートレート (1951年)
ルース・オーキン撮影



焼津 (1954年4月)

入館にあたってのお願い

- ・ 咳、発熱など体調不良の症状がある方は、ご入館をお断りすることがあります
- ・ マスクの着用をお願いいたします
- ・ 咳エチケットをお守りください
- ・ 手指消毒にご協力ください
- ・ 入館時の体温測定にご協力ください
- ・ 館内ではお静かにご鑑賞ください
- ・ 近くの方とできるだけ間隔をおいてご鑑賞ください
- ・ 感染予防・拡散防止のため、館内スタッフはマスクを着用しています

ご理解とご協力をお願いいたします

同時開催 ドレスコレクション展

「フランス文学が誘う街とファッションー19世紀後期から20世紀へー」

華やかな時代を描いた小説では、煌びやかな街に美しい衣服が登場します。その社会その時代を映し出すのが、文学とファッションです。

2022年は、プルースト没後100年の年でもあります。『失われた時を求めて』の時代、女性たちは美しいドレスで着飾りました。本展ではその時代の貴重なドレスの数々をご紹介します。

時空を一飛びして皆さんが降り立つのは19世紀後期から20世紀初頭のパリ。タイムトラベルを愉しみましょう。



イヴニング・ドレス
1870年頃



アフタヌーン・ドレス
1903-05年頃

特別展

「もうひとつの顔 ロバート・キャパ セレクト展」

2022年 9月10日(土)～11月6日(日)

開館時間 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 月曜日、9月20日(火)、10月11日(火)

※ただし9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝)は開館
新型コロナウイルスの影響で変更の場合があります

入館料 一般 1,000円(800円)
65歳以上・大学生 500円(400円)
高校生以下無料

※ 神戸市内在住の65歳以上の方は無料です。
※ カッコ内は有料入館者30名以上の割引料金です。
※ 神戸ゆかりの美術館、小磯記念美術館の当日入場券(半券)をお持ちの方は割引が受けられます。

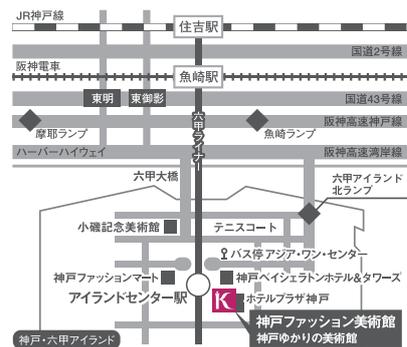
主催 神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社
後援 サンテレビジョン、ラジオ関西
企画協力 東京富士美術館
展示協力 大阪樟蔭女子大学

お問い合わせ(広報担当)

TEL: 078-858-0050

FAX: 078-858-0058

Email: press@fashionmuseum.jp



アクセス

▶ 電車ご利用の場合

JR「住吉駅」・阪神「魚崎駅」で六甲ライナーに乗換、「アイランドセンター駅」下車 南東徒歩3分

▶ お車ご利用の場合

阪神高速神戸線「摩耶」・「魚崎」ランプから約10分
阪神高速湾岸線「六甲アイランド北」ランプから約2分
三宮からハーバーハイウェイ経由約15分

※ 当館地下の神戸ファッションプラザ駐車場のご利用が便利です
(利用料金: 20分100円・1日最大550円)



〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2-9-1
<https://www.fashionmuseum.jp>